



インドの気候

インドの季節は大きく3つに分けることができます。4〜6月までが暑期、7〜9月までが雨期、10〜3月までが乾期となります。

暑期とはかく暑いです。5月の半ばには気温が48℃を超える日々が続きます。この時期は暑さ対策のためのほとんどの人が日中は外出をしません。町中の店も昼頃から店じまいし、陽が落ち始める午後6時頃から再び表戸を開き始め、村の人々は続々と外に出始めます。暑い時期を乗り切る方法として、インドに教えられて衝撃を受けた言葉があります。

「この時間は何もしないことがする」
「私自身もインドの暑さを体験して、これ以上に当てはまる言葉はないと納得しました。」



夏場、日中に休むインド人

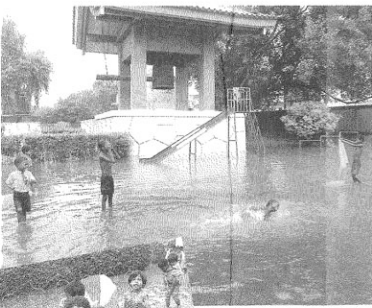
暑期の終わりは突然のスクールが知らせてくれます。そして始まる雨期は滞在期間中で最も厳しい季節でした。暑さは少し和らぎますが湿度が多く、ミストサウナ状態の日々が続きます。

この時期の雨の量によって作物のできる量が大幅に

変わります。私が駐在した1年目ほどにかく雨が少なくて米がでなかつたため、市場での米の値段がどんどん高くなつてしまいました。インドの人々にしては雨は本当に恵みなのです。



しかし、翌年はたくさん雨が降りました。日本寺は周りの建物よりも低い土地に建てられており、水はけがものすごく悪いため



雨が敷地内にはたまって膝まで水に浸かてしまいます。そんな水に浸かつた園庭で近所の子どもたちが泳いでいるのを見て驚かしました。大人は、いかにして雨水を外に出そうか、雨水に含まれるばい菌が傷口に入らないかなどを心配しますが子どもたちにとってはそれが天然のプールであって、暑さを和らげる格好の遊び場なのです。その光景を見て私はすべてを自分の都合の良いほうに変えようとするのではなく、ありのままの状況を楽しむことも大切だと学んだ気がしました。もちろん病気になる程度にはです。

↑雨によってプールと化した園庭で遊ぶ子どもたち
↑雨期、菩提樹学園の園児たちの下校風景



毛布に包まる猫

さて雨期も去り乾期になると、ブツダガヤは氣に賑わいだします。日中は大変過ごしやすくなりますが、12月下旬から1月上旬までは朝晩が大変冷え込む時期であり、最低気温が2℃という日は、「いつでも暑いインド」というイメージが一気になくなりました。朝のお勤めも、白い息を吐きながら勤めます。



冬場、朝一番のチャイ

乾期は気候が安定するため巡礼シーズンとなります。日本をはじめタイや台湾、中国、ミヤマー、スリランカ、ブータンなどの国々の仏教徒が聖地ブツダガヤを訪れます。

(続く)